2025.11.5

【看護福祉リハビリテーション学部 看護学科】カリキュラムマップ（2026年度入学生用）

授与する学位：学士（看護学）		ディプロマ・ポリシー
知識・理解	幅広い視野	DP1:人、自然、環境、社会、地域、国際について幅広い教養を有している DP2:看護学について適切な知識や理解、そして技術を有している DP3:幅広い視野をもって合理的・批判的に判断できる
汎用的能力	基本的能力	DP4:適切な日本語運用力を修得し、活用することができる DP5:母語以外の特定の外国語について基礎的なスキルを修得し、活用することができる DP6:基礎的ICTの知識・スキルを修得し、適切に活用することができる DP7:数的データを含む多様な情報を適切に収集・分析し活用することができる
態度・志向性	豊かな人間性	DP8:仏教精神を理解し、自らの理解・判断・行動を見つめ直す姿勢を身につけている DP9:多様性の尊重と共生の精神を有している DP10:日本の伝統文化を深く理解し、その成果を自分の生活に生かすことができる
	態度・志向性	DP11:高い倫理観を持ち、思いやりの心を忘れずに他者と接することができる DP12:看護学の知識・理解・技能等に基づき、対話や議論を重視し、他者・他文化との相互理解に努めることができる DP13:看護学の知識・理解・技能等を活用して、社会に参画する態度を有している
統合的な学習経験と創造的思考力	応用的能力	DP14:自らの生涯を見通す視野を持ち生涯を通じて学び続け、キャリア形成をする力を備えている DP15:現代社会の諸問題を解決するために、看護学の知識と技能を活用し、問題解決に実践的に取り組むことができる

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号 ○:DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで													
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	DP13	DP14	DP15
人体の構造と生理機能	医療に関するすべての知識の基本になる人体の構造とその機能について理解を深める。	1. 解剖学に準拠して人体の諸器官の「構造」について理解している	○	○	○												
		2. 生理学に準拠して人体の諸器官の「機能」について理解している	○	○	○												
		3. 外部環境に対する反応としての生命維持の仕組、遺伝・生殖・発生、老化の仕組の基本が理解できる。	○	○	○												
病気の成り立ち	ヒトが病気になったときに示す、身体の構造と機能の変化と、それがどのように生じるかについて学ぶ。	1. ヒトの病気の原因、病態、発症メカニズムを、先天異常と遺伝子異常・代謝障害・循環障害・感染と炎症・腫瘍・変性・老化の6つのカテゴリーから理解している	○	○	○												
		2. ヒトの病気の診断、治療、予防の基本を理解している	○	○	○												
		3. 各臓器ならびに組織の疾患について理解している	○	○	○												
からだの防御の仕組み	病原体とその感染および感染症の基礎知識、病原体に対する身体の防御機構（免疫機能）、感染を防ぐことについて学ぶ。	1. 細菌・ウイルス・真菌など病原体の知識、病原体の感染経路、身体への侵入・増殖、疾病を起こすメカニズムを理解している	○	○	○												
		2. 免疫機能と、免疫機能による身体の感染防御機能を理解している。	○	○	○												
		3. 感染症の診断・治療・予防の基本を理解している。	○	○	○												
薬理学	薬物の人体への生理的影響について看護の役割を視座に学ぶ	1. 薬物の体内の動態・代謝と薬物の投与経路、作用・副作用を理解している	○	○													○
		2. 薬物の各薬理作用別に薬物の機能などを理解している	○	○													○
		3. 薬剤それぞれの作用機序や臨床応用を理解している	○	○													○
診断と治療 Ⅰ	呼吸器・循環器・血液/造血器・内分泌・代謝・脳/神経・アレルギー/膠原病・消化器/肝臓/膵臓・腎臓・皮膚/感覚器・運動器・泌尿生殖器など内科系・外科系・婦人科系の諸疾患や感染症について、徴候、検査法、診断の過程と主要な疾患の治療と予後について学び、各疾患のイメージを習得し、適切な看護を提供する知識・手法・能力を養う。	1. 左記の疾患の病態・病理の基本（病気のイメージ）を理解している		○											○		○
		2. 左記の疾患の検査、治療、予後について理解している		○											○		○
		3. 患者の病態と診断・治療を統合し、看護サービスの展開を理解している		○											○		○
診断と治療 Ⅱ	老年医学、新生児/小児医学、精神医学の基礎知識、ならびに関係する疾患の、徴候、検査法、診断の過程と主要な疾患の治療と予後について学び、適切な看護を提供する知識・手法・能力を養う	1. 老年性疾患、小児・新生児・周産期疾患、発達・人格障害、精神疾患の病態、病理の基本を理解している		○											○		○
		2. 老年性疾患、小児・新生児・周産期疾患、発達・人格障害、精神疾患の検査、治療、予後について理解している		○											○		○
		3. 老年・小児・精神疾患の病態と診断・治療を統合して、看護サービスの展開を理解している。		○											○		○
基礎ゼミ	看護職を目指す大学教育の導入科目としての役割を担い、学士力のための基礎的な能力を養い、看護専門職を目指すための学習態度を培う。	1. 大学生活をイメージでき、看護専門職者になるための主体的な学習法が理解できる	○								○						
		2. 協同的なグループワークができる			○									○			
		3. 物事を根拠に基づき批判的に分析、判断し、自身の主張を論理的に構成する能力を習得できる				○										○	
公衆衛生学	公衆衛生学の歴史と健康施策と人々の暮らしにおける健康維持の役割の関係および健康指標などを学ぶ	1. 公衆衛生の歴史と人々の暮らしにおける健康維持の役割を理解している		○							○						
		2. 公衆衛生に基づいた健康施策とその役割が理解できる		○											○		
		3. 地域の特性のアセスメントの基本的能力を習得している		○											○		
社会保障論	社会保障制度の理念と歴史その構造の概要を医療保険と介護保険を中心に学ぶ	1. 社会保障制度の理念と歴史、社会保障の財源と費用を理解している	○	○	○												
		2. 社会保障制度における社会保障と生活保護制度の連関を理解している		○											○		○
		3. 諸制度の特性および看護の関わりを理解している	○	○	○												
ホリスティックヘルスⅠ	看護におけるヒューマンケアリング「こころ」「からだ」を統合する視点に重点を置き、統合医療・ホリスティックなアプローチなどの考え方を学ぶ。学生自らが自分自身の健康やQOLについて考え、セルフケア、ストレスマネジメントなどの概念を基礎として「自分を知る」「自分をケアする」ことの意味を学ぶ。	1. ヒューマンケアリングの基本的な考え方を理解する	○	○													
		2. こころの健康について理解する		○												○	
		3. ストレスマネジメントについて理解する								○						○	
専門職の連携（基礎）	医療福祉機関をはじめとした地域の生活者の支援に関わる職種の役割を理解する	1. 取得を目指している資格は、他職種と連携し地域における包括的なヘルスケアシステムを担い、人の命を救う専門職としての資格であることを理解する		○											○		○
		2. 地域における包括的なヘルスケアシステムを担う他の専門職を理解する									○		○	○			
		3. 他職種の視点を通して、将来についてのより明確な自己像を描けるようになる													○	○	○
生命倫理	人の生命の尊厳、基本的権利、尊厳死などについて学び、看護職としての基本的な倫理原則、倫理理論を学ぶ	1. 人としての命の尊厳と基本的権利を看護的視点から理解できる								○	○		○				
		2. 看護職として倫理的原則、生命・医療倫理を理解している											○	○	○		
		3. 日常生活の場の問題解決を倫理的判断にもとづいて考察できる												○			○
生化学	人体の構造や機能を細胞レベルにおいて、生命現象を化学的に学ぶ	1. 糖質、脂質、タンパク質およびアミノ酸その分類、機能など化学的性状を理解している	○	○	○												
		2. 生体内での代謝機構と相互転換およびエネルギー生成と利用を理解している	○	○	○												
		3. 核酸の性質と代謝、遺伝子の発現と遺伝子操作、ホルモン作用機序等を理解している	○	○	○												
看護と栄養	生物体・生活者としての人間理解を踏まえ、科学な人間の生命維持過程に必要な栄養とその代謝を学ぶ	1. 人間の生命を維持する食品成分の栄養素が理解できている	○	○	○												
		2. 栄養素の消化・吸収のしくみと健康の関係について理解している	○	○	○												
		3. 人間の食行動の特性と健康教育について理解している		○	○											○	
生物の基礎	生物や生物現象について、基礎的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を生物学的に探究する	1. 細胞、生殖と発生及び遺伝について理解している	○	○	○												
		2. 環境と生物の反応の間に見られる仕組みや内部環境の維持を理解している	○	○	○												
		3. ヒトの成長や器官の分化の調節について理解している	○	○	○												
化学の基礎	化学的な事物・現象について、基礎的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を探求する	1. 化学の役割や物質の扱い方について理解している	○	○	○												
		2. 有機化合物の性質や変化を理解し、物質に関する基本的な概念や法則を理解している	○	○	○												
		3. 物質に関する基本的な概念や法則をを日常生活と関連付けて考察できることが出来る		○	○				○								
ホリスティックヘルスⅡ	看護の中のアート、ケアリングの側面に重点を置き、1）中医学などの伝統療法を取り入れた、統合医療・ホリスティックなアプローチやエビデンス、2）セルフケア、ストレス・マネジメントなど、人生ケアする前に、まずは自分自身のwell-beingやQOLを満たすための具体的方法について学ぶ。	1. ホリスティック・ヘルスの概念について理解できている	○								○	○					
		2. 統合医療について理解できている	○											○	○		
		3. 自身のストレスマネジメントについて理解できている								○						○	○
ジェンダーと健康	性を身体的、心理的、社会的要素などから捉え、国内外の事例を通して健康や医療に関する課題をジェンダーの視点から多角的に捉える	1.　性の多様な要素について理解している	○								○		○				
		2. 自分自身のもつジェンダーバイアスのレベルを批判的に見極め、コミュニティに存在するジェンダーバイアスについて分析しジェンダーバイアスに対抗する方策について自らの考えを表現できる			○						○		○				
		3. 性（セクシュアリティ）が健康や医療にどのような影響を及ぼすかを説明できる			○						○						○

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号 ○:DP達成のために設定された到達目標と関連性がある 3つの達成目標に対して最大3個まで														
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	DP13	DP14	DP15
中医学の基礎	中医学ケアの原則は、人間生命が本来持っている自然治癒力を重要視し、自然との調和により健康を守る。この講義は、西洋医学と異なる視点で人体の病態生理を理解し、自然と生命を一体化する中医看護理念及び人体と自然とのトンネル機能を果たすツボや経絡循環の疎通による自然治癒力を得る方法を学ぶ。	1. 中医学の自然生命に対するホリスティックな考えや人の生活と自然変化の関係性を理解することができる。	○	○													○
		2. 個別性を重視する「地理的環境に起因するもの」「本人の体質に起因するもの」「季節時間・季節差に起因するもの」という対象理解の要素を理解することができる。	○	○													○
		3. 人間の健康を保つために、基本的な自然治癒力（気血水の充足と経絡循環の流暢）と自然規律の時間養生法を理解することができる。	○	○													○
専門職の連携（応用）	他職種との連携協働の実際を学習する専門職連携に関する発展的な科目であり、実践力のある専門職として就職するための総まとめ的な学習を行う。	1. 他職種間での専門的かつ高次なコミュニケーションをはかれるようになる			○						○			○			
		2. 実例を取り上げることで、より具体的で実践的な援助方法を理解する			○									○			○
		3. 専門職としての自己意識を高め、資格取得に向けての意欲向上を目指す			○									○		○	
包括的ヘルスケア論	包括的な視点で地域・在宅で生活している人々に対する保健・医療・福祉の施策の動向を学ぶ	1. 我が国の少子高齢化に伴う問題を理解する	○	○	○												
		2. 地域包括ケアの理論と制度を学ぶ		○	○												
		3. .地域包括的ケアの実際を学ぶ		○							○			○			
看護学原論	専門的なヘルスサービスとしての看護について、その領域と境界および看護実践の特徴を学ぶ	1. 看護の目標では看護の意味するもの、諸看護理論の特徴を理解している											○	○	○		
		2. 看護の対象では健康と関連づけながら人間について理解している											○	○	○		
		3. 看護の機能と役割では実践活動での看護過程・技術を理解している											○	○	○		
看護コミュニケーション	看護におけるコミュニケーションについて、概念や主要な理論、基本的技法、看護実践上に必要な具体的な活用・省察的態度について学ぶ。	1. コミュニケーションの概念と主要な理論を理解する		○	○								○				
		2. 基本的コミュニケーションの技法を理解する		○							○			○			
		3. コミュニケーション技法の看護における応用を理解する									○		○	○			
日常生活を支える看護技術Ⅰ	看護技術の習得および、技術修得過程の構造の意識化をはかり、技術修得能力を学ぶ	1. 看護実践の技術を抽象化してとり出した共通基本技術を理解している		○										○			
		2. 日常生活行動を維持・発展させるために必要な看護技術を理解している		○										○			
		3. 看護技術修得過程の構造の意識化・技術修得能力を理解している		○										○			
日常生活を支える看護技術Ⅱ	看護技術および共通基本技術の習得、技術修得過程の構造の意識化をはかり、技術修得能力を学ぶ	1. 自分自身が患者・看護師となり、共通する共通基本技術を習得している		○											○		
		2. 日常生活行動を維持・発展させるために必要な看護技術を修得している		○											○		
		3. 看護場面の自己・他者評価を通して自己評価能力を向上している		○											○		
治療・診断過程に伴う看護技術	対象者に行われる病気の診断・治療過程に伴う看護技術について理解し、習得する	1. 健康障害の経過における対象者の状況を理解している	○	○	○												
		2. 対象者の主たる治療法と看護援助技術について理解している		○													○
		3. 最新の医療内容（検査・観察・治療など）とその安全な方法について理解している		○	○												
看護過程論演習	模擬事例を活用し、対象の看護の必要性を認識し対象に必要な看護を系統的に計画・実施評価する思考の筋道を理解し、その能力を修得する	1. 情報を科学的に分析し、対象の看護上の問題を抽出できる	○		○												
		2. 対象の日常生活における問題の、解決方法を計画できる		○													○
		3. 看護過程の思考の筋道が理解できる（事例の問題抽出から計画立案）		○													○
フィジカルアセスメント概論	看護を科学的・理論的に実践する方法としてのフィジカルアセスメントの概念や対象者となる人の全体像を知る意義を理解する。同時に、健康問題を持つ人々を理解し、具体的な看護援助を見出すために必要なアセスメントの知識と技術を学ぶ。	1. 看護におけるフィジカルアセスメントの意味と目的と医療におけるフィジカルアセスメントの違いを理解することができる。		○									○	○			
		2. 解剖学など専門知識をフィジカルアセスメントに生かし方が分かる		○									○	○			
		3. 患者を人間という統合体としてアセスメントする必要性を理解することができる。		○									○	○			
フィジカルアセスメント演習	看護におけるフィジカルアセスメントの意味と目的を理解し、解剖学など専門知識に根拠付けられた診査技術を習得する	1. ヘルスアセスメントにおけるフィジカルアセスメントの位置と目的を理解している		○									○	○			
		2. 問診、触診、聴診、パイタルサインなどフィジカルアセスメントの基本的診査技術ができる		○									○	○			
		3. 得られた情報の適切な判断、評価、看護援助への活用ができる		○									○	○			
仏教看護論Ⅰ	仏教看護論の意味とその本質、位置づけ、主要概念、方法論について学ぶ	1. 仏教看護の概念を理解している	○							○		○					
		2. 人間の「生老病死」の局面を看護上の概念として理解している	○	○	○												
		3. 仏教看護の概念にもとづいた看護サービスを理解している		○						○			○				
仏教看護論Ⅱ	仏教看護の可能性、仏教看護実践の基本姿勢、仏教看護における人間関係、仏教看護と看護過程、人間の「生」と仏教看護の実際、人間の「老」と仏教看護の実際、人間の「病」と仏教看護の実際、人間の「死」と仏教看護の実際などについて学習する	1. 医療・看護の場面における仏教看護の理論が理解できる		○	○					○							
		2. 仏教看護の実践可能性、看護実践が理解できる								○	○			○			
		3. 「生老病死」の理念を仏教看護を通して看護過程で実践できる		○									○			○	
看護倫理Ⅰ	医療における看護実践の基盤である倫理観、倫理的判断や問題の認識、倫理的原則に基づく対応の基本について学習し、倫理に基づいた看護実践のための基礎的能力を養う	1. 看護実践における倫理観、倫理的判断、倫理的原則に基づく対応の基本が理解できる	○										○	○			
		2. 看護倫理に裏打ちされた看護を実践するための基礎的能力が理解できる	○										○	○			
		3. 患者を尊重する態度や看護学生としての責任を臨地実習に生かす事ができる								○			○	○			
看護倫理Ⅱ	看護倫理Ⅰで学び理解した倫理的原則に基づく判断、態度や行動について理解したとて、これまでの臨地実習の体験をふまえ、複雑な現実問題に取り組む際必要な倫理に基づいた看護実践とは何かを省察し、今後の行動における指針を得る。	1. 臨地実習で体験し自ら思考し行動したことを振り返り、看護倫理の在り方が考察できる											○	○	○		
		2. 実習体験との関連づけとクラスメンバーとの学びの共有を通して、倫理に基づいた看護実践的態度について省察できる											○	○	○		
		3. 看護職の倫理綱領本文16条(日本看護協会)を事例から問題点を抽出できる											○	○	○		
母性看護学概論	女性の性と生殖を「リプロダクティブヘルス／ライツ」の視点から捉え、女性のライフステージにおける発達課題と健康について理解する	1. リプロダクティブヘルス／ライツを理解し、女性の性と生殖についての権利を考察できる	○								○			○			
		2. 女性とその家族のライフステージにおける発達課題について理解している		○									○				○
		3. 母子保健に関する法律や制度を知り、母子に関する社会的課題について考察できる		○					○								○
小児看護学概論	小児期の成長・発達の理解及び小児保健の動向を学ぶ。小児医療における子どもの権利について学ぶ	1. 小児看護実践のための子どもの成長・発達について理解している		○	○												
		2. 小児医療と子どもの権利の関連を理解している									○		○	○			
		3. 現代社会に生きる子どもと家族の健康問題を理解している	○						○								○
成人看護学概論	成人期の健康問題への理解を深め、病の軌跡やストレス理論などから看護支援の在り方を学ぶ	1. 成人期の健康問題の特性を理解している		○													
		2. 成人看護学で必要な看護理論を理解している	○	○													
		3. 成人期の健康問題やストレスへの看護的支援が理解できている		○								○					
老年看護学概論	高齢者を身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな側面から全人的に捉え、加齢現象や健康問題に対する支援について学ぶ	1. 高齢者を身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな側面から全人的に捉えることができる		○	○						○						
		2. 高齢者を取り巻く倫理的課題について理解できる									○		○				○
		3. 高齢者の加齢現象や健康問題について理解し、その予防や治療・看護について概観できる		○										○			○
精神看護学概論	精神看護学の概念および精神障がい者の社会的背景について理解を深め、人間の成長発達の過程や社会状況の中で生じる危機への対応について学ぶ。	1. 精神看護学における健康の概念と対象となる幅広い人々について理解できる		○									○				○
		2. 病いの経験と医学モデルによる疾患という2つの側面から精神障がいを理解できる。	○						○		○						
		3. 日本における精神疾患及び障がいとその治療の歴史的な流れを理解できる。			○							○		○			
在宅看護学概論	療養者とその家族が、人としての尊厳、健康で安全に生きるという「自分の家での生活の基本」を実現するための看護的支援を学ぶ	1. 人間の尊厳を守ることを理解している								○	○		○				
		2. 療養者とその家族の健康と安全を理解している		○	○									○			
		3. 連携と在宅支援について理解している			○						○			○			
地域看護学概論	地域の人々の健康課題に対応した地域看護活動の概要を学ぶ。	1. 地域看護の考え方と主要な理論を理解している		○													
		2. 地域看護活動の対象と場、方法を理解している		○													
		3. 地域看護の継続性と包括性を理解している		○													○
母性看護学援助論	周産期の母児／子および家族の身体的・精神的・社会的特徴について学ぶ。また、対象者のセルフケア能力を高めるための保健指導の意義と実際を学ぶ	1. 周産期の母児／子の特徴と正常経過を理解している		○										○	○		
		2. 健康診査を始めとした母子支援の意義と実際を理解している		○										○	○		
		3. ハイリスク妊娠について理解している		○										○	○		

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号 ○:DP達成のために設定された到達目標と関連性がある 3つの達成目標に対して最大3個まで													
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	DP13	DP14	DP15
母性看護学演習	周産期の母児/子および家族のケアに必要な知識と技術を習得する. さらに, ウェルネスの看護過程を用いて正常経過をたどるの対象に看護過程が展開できるよう, 実践で活用できる知識と技術にまで高める.	1. 周産期に必要な看護技術を科学的根拠をもって安全に実施できる		○					○						○		
		2. 周産期に必要な健康管理の方法を理解している		○							○						○
		3. 周産期における母子相互関係について理解している		○									○				○
小児看護学援助論	子どもの権利や発達的視点を踏まえ、健康障害のある子どもと家族への看護を展開する基礎的知識を学ぶ	1. 子どもの入院・病気が子どもとその家族に及ぼす影響を理解している		○	○												
		2. 小児の健康レベルに応じたアセスメント技術を理解している		○	○												
		3. さまざまな場面における子どもとその家族への看護援助の視点を理解している		○	○									○			
小児看護学演習	疾患をもつ子どもの事例展開を通して、小児看護における知識を統合する力を学ぶ	1. 教育など他職種との協働・連携における小児看護の役割について理解している	○								○		○				
		2. 子どもに特有な看護技術を学び、発達的視野をもった小児看護の実践を理解している		○										○		○	
		3. 事例展開を通して、小児看護における知識を統合する力が身についている			○				○								○
成人看護学援助論	あらゆる健康段階、健康障害を持つ成人期の対象に必要な看護について学ぶ	1. あらゆる健康段階にある対象の特徴と看護の役割を理解している		○	○												
		2. 健康障害の種類と特徴を理解し疾患の治療・検査の方法と看護を理解している		○											○		
		3. 回復過程に合わせた個別性のある看護援助の方法を理解している		○	○												
成人看護学演習	健康段階に応じた看護技術の方法と成人期にある対象への看護過程の方法をについて学ぶ	1. あらゆる健康段階における看護実践方法について理解している	○								○						○
		2. 成人看護に必要な看護技術を習得する		○									○		○		
		3. 事例展開を通して成人期の対象に対する看護過程の方法を習得する			○				○					○			
老年看護学援助論	高齢期特有の疾患や生活機能障害について学び, 高齢者の個別性とQOLに配慮し、科学的根拠に基づいた看護支援を理解する	1. 高齢期特有の疾患や生活機能障害について学ぶ		○										○			○
		2. 老年期の看護過程の特徴やアセスメントツールの目的・特徴が理解できる		○											○		○
		3. 老年期特有の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルなニーズに対応した、科学的根拠に基づく看護支援について学ぶ		○	○												○
老年看護学演習	老年看護に必要な技術を学び, 実践能力および看護過程の方法を修得する	1. 各種障害や要介護状態にある高齢者への看護実践について理解できる		○							○			○			
		2. 老年看護の実践に必要な援助技術を取得する			○								○		○		
		3. 事例展開を通して、高齢者に対する看護過程の方法を修得する												○	○		○
精神看護学援助論	精神障がいをもつ人に対する基本的な援助方法および精神科リハビリテーション活動、精神医療保健福祉の連携と支援法を学ぶ	1. 精神看護学の基礎的知識や技術を理解している		○					○				○				
		2. 精神障がいをもつ人に対する基本的な援助方法を理解している	○								○						
		3. 精神科リハビリテーション活動、精神保健医療福祉の連携と支援の方法を理解している			○								○				○
精神看護学演習	様々な状況にある対象者の精神状態の把握とアプローチ法に関する基礎的な知識を学び、身体、精神面の統合を学ぶ	1. 精神障がいをもつ人の身体的・心理的アセスメント能力を習得している		○					○	○							
		2. 精神障がいをもつ人に対する看護過程の展開方法を理解している	○										○			○	
		3. 心の不健康・病気のとき、看護職として支援方法を理解している			○									○			○
在宅看護学援助論	在宅療養者と家族への看護活動を支える援助技術、医療的ケアを必要とする人の看護の実際を学ぶ 訪問看護を中心とした在宅サービスの利用に関する、介護保険、医療保健等の社会保障について学ぶ	1. 在宅において医療管理を必要とする人の看護の実際について理解している		○	○									○			
		2. 医療的ケアを必要とする対象への看護を、倫理的・安全に配慮しながら具体的に考える		○									○				○
		3. 在宅サービス利用に関する介護保険、医療保険等の社会保障を理解している		○										○			○
在宅看護学演習	事例の個別性に応じた看護過程の展開を通して在宅看護に必要な看護の役割について学ぶ 在宅でその人らしい生活を実現するための看護の役割・機能を学ぶ。	1. 事例を通し状態に応じたアセスメントと看護の実際について理解できる		○									○	○			
		2. 訪問看護における看護過程の展開方法と看護の役割と機能を理解している		○										○	○		
		3. 在宅療養者と家族の価値観や生活の営みを尊重し、個別性を踏まえた支援を考える		○	○										○		
緩和ケア	終末期を迎えた患者やその家族には、身体的・精神的・社会的なさまざまな心身の「痛み」について理解し、一人の人が、それらの痛みを乗り越えて、最後の瞬間までその人生を意味あるものとする支援について学ぶ。医療者として身につけるべき姿勢や態度を考える。 ホスピスケア、緩和ケア、を理解し、仏教に基づくビハーラケアを学ぶ	1. 緩和ケアが必要な患者・家族の身体的・心理的状況を理解する		○	○								○				
		2. ターミナル期にある患者に仏教が提唱しているビハーラケアについて理解している								○	○						
		3. 仏教精神に基づいた終末期の看護実践について理解する											○				○
医療安全	医療サービスの高度化に伴い、より質の高い看護サービス提供するため、医療看護の最も基本的な要件である医療安全の確保について必要な知識を習得する	1. 医療安全の基本的な考え方と看護職の役割について理解している		○					○								○
		2. リスクマネジメントの方法について理解している		○					○								○
		3. 感染に対する危機と予防策を理解している		○					○								○
疫学	疫学の方法と基本的な考え方を学び、公衆衛生看護学における特定地域の疾患構造などのアセスメントおよび保健活動などの根拠に必要な知識を習得する	1. 疫学の方法と基本的な考え方を理解している		○					○								
		2. 公衆衛生看護学における特定地域の疾患構造などのアセスメントが自立して学習できる		○					○								
		3. 保健活動などの根拠に必要な知識を習得している		○					○								
保健統計学	保健医療従事者や研究者は個人の健康の維持・増進や公衆衛生向上のために様々な保健事業や疫学研究を実施する. その際必要な集団と個人の健康状態に関する情報を用いた分析の考え方と方法を学ぶ	1. 既往歴、家族歴、検診結果など個人の健康状態に関する情報を用いた分析の考え方と方法を理解している		○				○	○								
		2. 集団及び個人のヘルスアセスメント等看護学の統合的な視点における看護活動としての基礎知識を理解している		○				○	○								
		3. 保健医療従事者として基礎的な統計分析手法を理解している		○				○	○								
学校保健	学校教育として行われる学校保健の目的や内容、児童生徒の健康問題などをふまえて、学校における健康づくりの意義、さらに、学校内外の関係者・関係機関が連携した健康づくりの実際を学ぶ	1. 学校保健の目的、内容、方法について理解している		○							○						
		2. 学校保健における保健事業の立案を理解している		○					○								
		3. 学校保健教育の展開方法や学校保健管理の実際を理解している		○					○								
産業保健	歴史的に取り組まれてきた産業保健活動から労働と健康の関係、職業に起因する疾病などについて学ぶ	1. あらゆる職業に従事する人々の労働衛生対策や根拠となる労働基準法、労働安全衛生法などの法制度を理解している		○							○						
		2. 産業保健師の役割について理解できる		○							○						
		3. 労働形態の多様化、情報産業の発展に伴う健康被害や化学物質等有害物質対策、生活習慣病対策、メンタルヘルス対策など産業保健の現代的課題について考察できる		○							○						
健康教育論	健康教育の基本的知識を理解し、健康教育の目的・方法を学ぶ. 対象者の個人・集団特性を把握して, 各々に可能な生活行動について具体的に学ぶ. 保健師が行う地区活動としての健康教育の企画・実施・評価の過程を習得する。	1. 看護職が行う健康教育の目的・意義が理解できる		○													
		2. グループの特性、及びグループ活動の意義と支援者の役割が理解できる		○							○						
		3. 保健師が地区活動として行う健康教育の企画・実施・評価の過程を習得する		○										○			○
基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習では、健康問題を解決するための看護活動を体験的に学ぶ	1. 看護の目的・対象の理解・看護が機能する場を体験的に理解している											○	○	○		
		2. 医療を受けている対象への関心と理解を深めている											○	○	○		
		3. 援助の場の体験を通して、看護の方法や看護師の役割が理解できる											○	○	○		
基礎看護学実習Ⅱ	患者の健康状態の好転をめざし、看護実践能力と態度の習得をめざし学習する	1. 看護の対象の健康レベルをアセスメントできる												○	○		○
		2. 看護対象の看護支援の方法を立案し実施できる												○	○		○
		3. 看護対象の看護支援について評価できる												○	○		○
母性看護学実習	周産期にある母児/子および家族との関わりを通して, 新しい家族を構築していく過程で必要な看護技術を習得する. ウェルネス看護過程を用いて, 個別的ケアを考察し実践できる.	1. 女性のライフサイクルにおける健康として捉えられる			○						○			○			
		2. 周産期における家族の再構築について理解できる	○								○		○				
		3. 妊娠期および産褥・新生児期における母児/子の健康課題と支援について理解し、実施できる		○					○								○
小児看護学実習	子どもを発達主体として尊重しその子らしく生活できるように、また各健康レベルに必要な支援のための看護実践能力を養う	1. 子どもの成長発達を理解し、観察、分析、評価できる。子どもの成長発達に応じた、子どもの健康問題の解決法について考えられる		○	○												
		2. 子どもと家族の健康問題（ニーズ）を認識し、分析、実践、評価できる。必要な社会資源を理解するとともに、保健医療メンバーとしての役割を理解している							○				○	○			
		3. 子どもや家族との対人関係における自己の気質を考え、今後の深めるべき自己の課題を明らかにすることができる								○						○	
慢性期看護学実習	慢性期および終末期にある患者に対する看護実践の方法を学習する。既習の知識・技術を基盤として、成人期にある対象を統合的に理解し、健康状況に応じた看護援が対象及び家族に実践できる能力を養う	1. 慢性疾患をもち生涯コントロールを要する患者の健康問題を捉え、セルフケア能力を高めるための援助を実践する		○										○			
		2. 慢性期にある患者の特性を理解し、その人らしい生活を営むための援助方法を習得できる												○	○	○	
		3. セルフマネージメントを促すための教育支援方法について理解できる		○	○								○				

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号 ○:DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで													
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	DP13	DP14	DP15
急性期看護学実習	急性期にある対象の特性を理解し、苦痛を緩和・回復を促進するための基本的知識・技術を実践できる能力を養う	1. 手術侵襲や急激な病気の発症にみまわれた生体は、その侵襲の程度や生体反応のバランスによって回復過程が左右されることを理解している		○	○								○				
		2. 急性期にある対象のニーズをと特徴的な急性状態にある患者の看護を展開できる			○				○						○		
		3. 対象の生命力を引き出し、回復を促進する実践的な看護援助の方法を理解できる											○	○	○		
老年看護学実習Ⅰ	介護保険施設での高齢者の日常生活への援助やコミュニケーションをとおして、高齢者のQOLの保障や生活の場を整える看護の視点を養う	1. 高齢者との関わり方を理解する		○		○							○				
		2. 介護保険施設の特色や役割を理解し、看護実践について学べる												○	○		○
		3. 老年看護における継続的学習能力を修得する													○	○	○
老年看護学実習Ⅱ	高齢者の発達課題、加齢現象、健康障害、生活機能障害、および心理的・社会的・スピリチュアル面の変化を統合して把握することで、健康上の問題を判断し、残存機能を活用した援助ができる能力を養う	1. 高齢者との援助的人間関係の構築について学ぶ		○		○							○				
		2. 高齢者のQOLと個別性に配慮した看護過程を理解し実践する		○							○						○
		3. 老年看護の学習者として、また未来の実践者としての姿勢を確立する			○					○							○
精神看護学実習	精神疾患の治療および看護に向け、看護理論を用いて対象者の理解を深め援助する	1. オレム・アンダーウッド理論を用いて対象者の理解を深め、必要な看護援助方法を把握し実践する	○	○					○								
		2. 対象者及びその家族の心理・社会的発達課題を捉え、治療的な相互関係を構築できる			○								○	○			
		3. 対象者及びその家族が利用できる精神保健・医療・福祉に関連する社会資源を考えることができる													○	○	○
在宅看護学実習Ⅰ	在宅療養者と家族の生活の場における看護を理解し、訪問看護ステーションでの実践を通して、在宅看護の役割や機能、多職種連携の重要性を学ぶ。	1. 訪問看護ステーションの役割と機能、運営の実際について習得する		○										○			○
		2. 療養者と家族の健康問題及び生活上の諸問題を考察し、訪問看護過程の展開を習得する		○					○								○
		3. 多職種連携や地域包括ケアの中での訪問看護師の役割を理解し、協働の意識をもつことができる			○						○			○			
在宅看護学実習Ⅱ	多様な在宅ケアの場での実習を通して、地域で生活する人々を支える看護の役割と機能を理解し、在宅看護を実践する基礎を学ぶ	1. 地域包括支援センター、デイサービス・デイケア、障害者支援など、多様な在宅ケア資源の役割と機能を理解できる		○											○		○
		2. 地域で暮らす人々の支援や看護援助を理解し、生活を支える看護のあり方を具体的に考えることができる		○	○								○				
		3. 多職種・多機関との連携の実際を理解し、看護職の役割を理解できる	○											○	○		
研究方法論	看護研究の意義と目的、進め方、分析方法など研究の概要と基本的な手法を学び、卒業研究、論文作成が円滑に遂行できるように、研究テーマの設定、研究方法、研究に関する倫理を理解し、研究遂行を習得する	1. 看護研究の意義と目的、進め方、分析方法など研究の概要を理解している	○	○													
		2. 研究テーマの設定、文献レビュー、倫理的配慮、計画書の作成、分析、考察の方法を理解している			○		○										
		3. 計画に沿ってデーター収集、分析、考察、論文作成が遂行できる							○							○	
家族看護学	家族の構造/機能、家族の発達および家族看護に関連する理論を理解し、家族看護の意義、目的および家族の看護過程について学ぶ	1. 家族の概念について理解する	○								○						
		2. 家族の構造・機能、家族の発達等の家族看護に必要な理論を理解する		○										○			
		3. 家族看護におけるアセスメント、支援について理解する			○								○				
看護政策学	看護職の活動の場が拡大し、活動対象者が多様化している中で、質の高い看護活動を提供するための環境づくりとしての看護政策を学ぶ	1. 我が国の看護政策の動向と医療政策を理解している		○							○					○	
		2. 我が国の看護制度と看護教育制度を理解している		○													
		3. 看護政策における看護職の役割・機能について理解している		○													
卒論ゼミ	看護学に関する新しい知見を見出す研究の意義や倫理的課題、看護実践と看護理論との関連について学び研究の基礎を実践する。そのプロセスを論文にまとめることを通して研究の基礎を理解する	1. 看護研究の意義及び方法が理解できる			○				○				○				
		2. 看護に関連するテーマを持ち、文献検討ができる	○								○			○			
		3. 適切な研究方法の選択及びデータ収集により論文をまとめることができる				○									○		○
看護管理論	看護の対象に対して、安全で質の高いチーム医療や継続的ケアを提供するために、対象を取り巻くあらゆる資源（人的、物的、財的）を効果的、効率的に利用、活用するための組織や体制について学び、看護管理者の役割について理解する	1. マネジメント機能とその方法を学び理解している													○	○	○
		2. 看護専門職の機能や役割が発揮できるための看護管理者の役割を理解している													○	○	○
		3. 保健・医療・福祉の地域連携体制と継続ケアの在り方、その中での看護の役割について理解している													○	○	○
コンテンポラリーナーシング	医療の進歩や社会情勢の変化に対応できる能力を養うため、その時々の社会情勢に合わせて、最新の医療やケア、法令などのトピックスを学習する	1. 最新の情報を理解できる	○		○												
		2. 医療・福祉分野の課題を考えることができる	○		○									○			
		3. 医療・福祉分野への社会のニーズを考えることができる	○		○										○		
災害看護論	災害支援活動を行うために必要な災害の定義、災害サイクルにおける各期の特徴、人や社会への影響、災害時の特徴的な健康課題や看護ニーズを学び、災害の及ぼすマイナスの影響を少なくする活動、看護職の役割を深める	1. 災害看護の概念が理解できる	○	○													
		2. 災害時の看護ニーズが理解できる		○	○										○		
		3. 災害の予防対策が理解できる	○	○													
統合看護学実習	全実習を終えた後、看護の役割と機能を改めて確認し、看護職としての実践に向けた準備を行うために、病院、施設等において、看護管理、危機管理、倫理的態度、多職種との協働等について個別的看護実践を通し、その意義と重要性を学ぶ	1. 看護の役割と機能を確認し看護学の全領域を総合的に把握できる													○	○	○
		2. 個別な看護実践を通し多職種との協働、マネジメント等について、その意義と重要性を認識できる													○	○	○
		3. 看護管理、看護倫理、災害看護を包括した看護実践が理解できる													○	○	○
国際看護活動論	国際的な視点で看護学を捉え、看護援助の必要性を理解し、本学における仏教精神を基軸とした、国際間にある宗教、価値、生活、経済状況の差異を理解し、国内外における異文化の人々との共生を図り、必要な看護支援、人々の生活支援に関する視点とその実際を学ぶ	1. 国際看護の概念が理解できる	○										○	○			
		2. 国際間の文化的差異に基づいた看護支援が理解できる	○										○	○			
		3. 国際的課題に対応し仏教精神に基づいた看護実践が理解できる	○										○	○			
公衆衛生看護学概論	地域を基盤として展開する公衆衛生看護の特性および公衆衛生看護管理を学ぶ	1. 公衆衛生看護の理念や対象、展開方法を理解している		○													
		2. 人々の健康に影響する要因と今日的健康課題を理解している		○													
		3. 公衆衛生看護管理の目的・構造・機能を理解している		○													
対象別公衆衛生看護活動論	対象の発達段階や健康課題に対応した公衆衛生看護活動および健康危機管理の実際を学ぶ	1. 地域における母子保健・成人保健・高齢者保健の理念と施策、保健活動の実際を理解している		○													
		2. 地域における難病保健・障害者保健・障害児保健・精神保健・歯科保健の理念と施策、保健活動の実際を理解している		○													
		3. 地域における健康危機管理の理念と目的、災害時および感染症集団発生時の保健活動の実際を理解している		○													
保健医療福祉行政論	地域における保健・医療・福祉行政の基本および各々の制度の概要、保健医療福祉計画の策定・管理・評価のプロセスについて学ぶ	1. 保健・医療・福祉行政の理念と行政・財政の仕組みを理解している		○													○
		2. 保健・医療・福祉行政の制度とその概要を理解している		○													○
		3. 保健医療福祉計画の策定・管理・評価のプロセスを理解している		○													○
保健医療福祉行政論演習	特定された地域の保健医療福祉計画とその現状を分析して、健康課題解決のための政策提言の実際を学ぶ。	1. 特定された地域の保健医療福祉計画の現状から健康課題を抽出できる					○	○									○
		2. 特定された地域の健康課題解決のための方策を立案できる					○	○									○
		3. 保健医療福祉計画における住民参加の意義を理解している															○
公衆衛生看護学演習	特定された地域の健康の維持増進・疾病予防を目指した公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。	1. 特定された地域の地域診断より健康課題を抽出して、その対策を検討できる		○					○								○
		2. 個人とその家族のニーズに応じた家庭訪問指導を計画・実施・評価できる		○					○								○
		3. 対象のニーズに応じた健康教育を企画・実施・評価できる		○					○								○
公衆衛生看護技術論Ⅰ	公衆衛生看護活動の対象は、個人・家族・集団・地域である。個人・家族に対する家庭訪問や健康相談、グループ支援・地区組織活動、地域におけるヘルスケアの構築などと公衆衛生看護活動の支援技術を理解し、習得する。	1. 公衆衛生看護の対象、支援方法の特性を理解する		○													○
		2. 公衆衛生看護活動の支援技術である家庭訪問、健康相談、健康診査、グループづくり・地区組織育成のプロセスと支援方法を習得する		○										○			○
		3. 保健・医療・福祉分野の関係機関・関係職種の現状と連携方法を理解できる		○										○			○
公衆衛生看護技術論Ⅱ	地域の健康問題を分析し、健康ニーズを明らかにし、解決の方法を立案する地域支援活動について、コミュニティアセスメントの方法と公衆衛生看護活動計画、地域組織活動および地域全体のヘルスケアシステムを構築する技法について学ぶ	1. 地域の健康情報や健康問題の把握と分析、保健事業の計画立案、実施、評価方法が展開できる		○					○								○
		2. 地域ケアの向上を目指す地域ケアシステムの技法を理解している		○					○								○
		3. コミュニテイの健康増進における公衆衛生活動としての戦略を理解している		○					○								○
公衆衛生看護学実習Ⅰ	学校や産業、健康増進センターで行われている保健活動の体験を通して、学校や産業、健康増進センターにおける保健活動の特性を理解する。	1. 学校保健活動の特性を理解する		○										○			○
		2. 産業保健活動の特性を理解する		○										○			○
		3. 健康増進センターにおける保健活動の特性を理解する		○										○			○

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号 ○:DP達成のために設定された到達目標と関連性がある 某1つの達成目標に対して最大3個まで														
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	DP13	DP14	DP15
公衆衛生看護学実習Ⅱ	地域特性や地域住民の生活を理解し、地域住民の健康の維持増進・疾病予防を目指した公衆衛生看護活動を実践する基礎的能力を養う。	1. 地域診断の過程を理解する		○					○								○
		2. 個人・家族・地域集団の健康ニーズに対応した公衆衛生看護活動の方法・技術を理解する		○													○
		3. 地域ケアシステムの構築、保健師の役割を理解する		○										○			○
公衆衛生看護学実習Ⅲ	家庭訪問と健康教育など公衆衛生看護技術の実践能力を養う。	1. 個人とその家族のニーズに応じた家庭訪問指導を計画・実施・評価できる		○													○
		2. 対象のニーズに応じた健康教育を企画・実施・評価できる		○										○			○
		3. 個人の課題を集団や地域の課題として考察できる		○					○								○
教職論	教職の専門性と教師の魅力について学ぶ	1. 教職という仕事を多面的に理解している	○		○												
		2. 専門職的な能力を築きつつ、児童・生徒の学びをデザインできる実践的技能を備えている	○														
		3. 教職の専門性に裏打ちされて、総合的に展開できる実践的指導力を備えている	○														
教育原理	教育の理論と実践の関係を把握する	1. 教育の本質と社会的役割について理解している	○														
		2. 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、現代社会における多様な教育課題について、歴史的背景も踏まえて自らの見解を述べることができる	○		○							○					
		3. 学校、家庭、社会における教育に関する様々な思想を理解し、将来の教育のあり方について構想することができる。	○								○					○	
教育心理学	幼児、児童及び生徒の心身の発達・学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	1. 教育心理学で得られた様々な知見を概観し、相互の理解を深めている	○		○												
		2. 教育心理学的に授業評価ができる	○														
		3. その授業評価に基づき、授業計画・授業内容・授業方法について改善策を提案できる			○												
教育行政学	「教育の条件整備」のための教育法規・教育行財政・教育政策	1. 教育に関する社会的、制度的または経営的事項を理解し習得している	○														
		2. 教育制度、教育政策、学校経営に関する理解を深めている	○														
		3. 教育に関するさまざまな問題について深く考えることができる			○												
人権教育	人権尊重のための知識や態度及び実践力を養う。	1. さまざまな人権問題に関する知識を身につけている	○														
		2. 人権に関する基本的な考え方を知っている	○								○		○				
		3. 人権を自らの問題として認識し、考えることができる									○		○				
特別支援教育	中学校・高等学校の教諭・養護教諭・栄養教諭等の教員免許状取得を目指す学生として、特別支援教育の意義、制度の仕組みおよび生徒の理解と支援の方法の概要を身につける。	1. 特別支援教育の理念や目標を理解する	○														
		2. 具体的な支援・指導の在り方を検討する													○		
		3. 教育支援計画、個別の支援計画、組織的な連携の在り方について理解する												○			
教育課程論	教育課程の編成に関する基礎的な理念・原理の理解	1.教育課程の基本原理や実践に即した教育課程編成の方法を理解している。	○														
		2.学習指導要領改訂の流れとその時々に求められた資質・能力の変遷を理解し、学校教育と社会のつながりを教育課程の観点から見通すことができる。	○														
		3.中等教育におけるカリキュラム・マネジメントについて、その意義を自らの言葉で説明することができる。			○												
道徳教育の理論と指導法	道徳教育の歴史・理論および「特別の教科 道徳」の意義と指導法	1. 日本と西欧における道徳教育の歴史を習得している	○														
		2. 学校教育における道徳教育の目標と内容と方法を統一的に理解している	○								○		○				
		3. 実践的に解決しがたい問題にも、解決方法を模索し創意する志向性を有している															○
特別活動及び総合的な学習の時間	「特別活動」および「総合的な学習（探究）の時間」の意義と指導法を学ぶ。	1.特別活動及び総合的な学習（探究）の時間の意義と、今日求められている課題を認識している	○		○												
		2.特別活動及び総合的な学習（探究）の時間の指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を行うことができる				○											
		3. 模擬授業を行う経験を通して、授業の場での具体的かつ実践的な教育方法を修得している							○								
教育方法論(ICT活用を含む)	教育方法及び教育現場における情報通信技術の活用に関する理解	1. 教育方法に関する理論に基づき、授業研究を行うことができる	○					○									
		2. 教育方法に関する理論に基づき、教材研究を行うことができる	○					○	○								
		3. 学習教材を計画・開発・評価するプロジェクトに取り組むことができる						○									
生徒指導及び進路指導論	生徒指導の理論及び方法／進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	1. 個性を持つ生徒一人ひとりを理解できるための基礎的な知識を習得している	○								○						
		2. 教師の専門職性をふまえながら生徒に対する理解および援助の方法について考えることができる									○		○				
		3. 進路指導の理論と方法を知り、キャリア教育の実践について提案できる														○	
教育相談	教育相談（カウンセリング）に関する基礎的な知識を含む。）の理論および方法を理解する	1. 教育相談における技法を知っている	○										○				
		2. 教育相談への理解を深めている											○				
		3. 学校で教員となった場合どのように生徒・保護者と関わってゆくかについて各自が積極的に考えることができる												○			
養護概説	養護教諭の5つの職務（保健管理・保健教育・保健組織活動・健康相談・保健室経営）について理論及び実践を理解する。	1. 養護教諭の5つの職務について理解している		○							○						○
		2. 養護教諭の職務に直接影響を与える教育関係法規について、歴史（職制の向上）も含めて理解している			○												
		3. 学校の健康実態を踏まえた保健室経営計画を作成し、発信することができる。							○								○
事前・事後指導	事前指導では養護実習の準備を実践的に行い、有意義な養護実習へと繋げる。事後指導では養護実習の体験から抽象的概念化を図り、新たな体験へ繋げる。	1. 養護実習の意義と心構えについて基本的に理解する												○	○	○	
		2. 保健教育の方法・技術について実践的に習得する						○							○		○
		3. 保健管理（健康診断・救急処置・環境衛生検査等）について基礎的な実践力を修得する													○	○	○
養護実習	養護実習では、これまで修得してきた一般教養科目、教職専門科目、養護に関する専門科目等の学習成果を統合させ、学校教育の場で活用・検証及び実践的展開を行っていく。そして、自らの適性を判断しながら、さらなる専門知識の習得や技術の向上を図る。	1. 養護実習に真摯な態度で誠実に取り組むことができる											○			○	○
		2. 学校保健活動および養護教諭の職務を教育活動の一環として捉え、保健室の在り方や養護教諭の果たすべき役割が理解できる												○	○	○	
		3. 児童生徒の心身・生活の状況及び健康課題の特質を理解し、健康課題に対して、個別および組織的に適切な取組ができる							○					○			○
教職実践演習（養護教諭）	教員として必要な専門的実践力が、目標等に照らして、有機的に統合され形成されているかどうかを、最終的に確認する。履修した科目と活動の中で何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能等を補い養護教諭としての専門性に加えて、教師として実践力ある資質能力を習得する	1. 教員としての専門的実践能力が習得できている	○		○												○
		2. 演習の目標に対して十分達成できている	○		○												○
		3. 事例研究が適切に展開できる	○		○												○